

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		施設維持管理事業					②事業番号		7401	
③事業類型		4. 施設等維持管理事業			④開始年度		昭和 51 年度	⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等		○ 法令		条例	規則	要綱	計画等	その他		法令等の名称
⑦実施手法		○ 直営		全部委託	一部委託	補助・負担	その他			
⑧関連予算科目コード		款		9	項	5	目	5	細目	2
⑨担当部名		⑩担当課名						会計		一般会計
教育委員会		生涯学習課(青少年センター係)								

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 青少年センター利用者		① 利用者数		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
設備の不良箇所を確認し、必要に応じ修繕を行う。また、施設の維持のため、適正管理を行う。 【修繕】ガラス補修等施設の修繕 【機器維持管理】浄化槽・地下タンク・電子複写機・昇降機 【施設維持管理】機械整備・植木せん定・草刈り		① 委託件数		件	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
利用者に安全かつ快適に、安心して施設を利用してもらう。		① 修繕費		千円	
		① 計算式			
		② 委託料		千円	
		② 計算式			
		③			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
放課後の安全、安心な子どもの居場所づくりの提供を行うことができる。					
(1-4-3-1)安全な自主活動の場の提供		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
(1-4-3-2)安全な学習の場の提供		施策大(節) 4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします			
(1-4-3-3)ネットワークの拠点施設の適正管理		施策中 3 青少年、子どもの健全育成			
		施策小 4 子どもの居場所づくり			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	利用者数	人	12,839	11,103	8,106	8,000	8,000	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	委託件数	件	12	10	7	5	5	令和元年度より施設用務に係る委託がなくなる。
活動指標②								
活動指標③								令和2年度はガラス等の施設に係る修繕なし。
成果指標①	修繕費	千円	359	318	0	200	200	
成果指標②	委託料	千円	2,931	825	674	592	592	
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.63	0.65	0.51	0.51		事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.10	0.10		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.10	0.10		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	5,107	5,013	4,072	4,072		平成31年4月からの移転に伴い、維持管理や修繕等に係る一部事業を職員において行う。
	直接事業費	千円	6,907	3,496	2,069	2,458		
	総事業費	千円	12,014	8,509	6,141	6,530		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	12,014	8,509	6,141	6,530		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	青少年の健全育成のための活動拠点として竣工した本館を、利用者が安全かつ快適に、安心して施設を利用してもらう。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	平成31年4月から泉南中学校に併設されたことにより、必要な委託事業を見直し、関係部局との調整・委託事業の統合を行った。また旧青少年センター除却までの期間については、必要最低限の維持管理業務を残し実施している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔1〕の評価	A
評価項目			評価及び理由・説明等					
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)			ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	施設の規模、設立年数などの違いがあるため、他団体との比較は難しいが、見積り徴収など規定どおりに行っており、適当だと思われる。				

〔2〕有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔2〕の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。			ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	緊急性を要する修繕(ガラス破損等)については、即時対応できるようにしており、また利用者が安全に安心して過ごすことができるよう、維持管理を行った。				
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)			ア. ある イ. ない	可能な委託事業については、すでに同じ目的を持つ他部署と連携し実施しており、これ以上の余地はない。				
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。			ア. 類似なし ウ. できる ウ. できない	可能な委託事業については、すでに同じ目的を持つ他部署と連携し実施しており、見直しの余地はない。				

〔3〕効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔3〕の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)			ア. ある イ. ない	可能な委託事業については、すでに同じ目的を持つ他部署と連携し実施しており、見直しの余地はない。				

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	—	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞		
ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで) エ. 休止 ↓ (年から) オ. 廃止 ↓ (年から)
	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) c. 効率化する(コストを下げる) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—